

## 令和2年度研究授業・研究協議会 まとめ

今年度研究授業では、小・中・高の研究授業者に「ルーブリック評価表の作成と活用」を依頼し、協議会では実際の活用の方法とそれに伴う支援方法や児童の様子の変化を動画で配信した。また、グループワークでは、学年の児童に置き換えて支援方法を考えたり、作成の体験をしたりするなど、参加者が自学年での授業において今後作成・活用することができるよう企画した。

### 【ルーブリック表の期待される見込み】

- ・単元での達成水準が明確化(何をすれば達成か)され、複数の教員間による評価の標準化が図られる。
- ・どのような場面でどのような観点でどのように指導(評価)するかがわかりやすい(指導と評価の一体化)
- ・児童それぞれの活動分析を考えることができ、個人課題を明確にできる。

### 【今年度研究授業・研究協議会について】

	研究授業	協議会
小学部	学年:小学部2年生 教科:みる・きく・つたえる(国語・算数) 単元(題材):丸を学ぼう～まるみつけた!～	めあて:ルーブリック評価表を知る① 内容:評価表を使用し、児童1名の支援方法を考える(知識・技能)
高等部	学年:高等部1・2・3年生 教科:体育 単元(題材):フロアカーリング	めあて:ルーブリック評価表を知る② 内容:評価表を使用し、児童1名の支援方法を考える(思考・判断・表現)
中学部	学年:中学部2年生 教科:音楽 単元(題材):音を感じて表現しよう	めあて:ルーブリック評価表を作成する(体験) 内容:評価表を作成する。

### 【協議会について】

- ・学年単位での協議会を行い、人の密集を避けるとともに、集中する環境で実施することができた。
- ・他学部他学年との意見交換はできなかったが、全学部協議会を45分間におさめることができた。
- ・今年度は動画を用いた協議会を行った。来年度どのような形で開催するかを検討していく。

### 【ワーク内容について】

・今年度は「研究授業学年(の児童生徒の実態に合わせて)で作成された」ルーブリック表や教材・題材を用いたワークを行った。本来なら、それぞれの学年の実態に合わせて作成したものや応じた教材を使用するが、学年ワークの時間や「まずは活用する体験を」ということ、また研究授業者へアイデアを提供するという視点を鑑みて、このような形を設定した。「教材を先に決めて授業をする」ということではなく「評価表を用いて支援方法を考える」という視点を再確認する。

【ルーブリック表について】

左記目標はどの場面での活動？読み聞かせ  
場面？再現遊び中？鑑賞中？それぞれの  
観点はどこで指導(評価)するかを明確に！

3観点の目標	課題場面	3	2	1

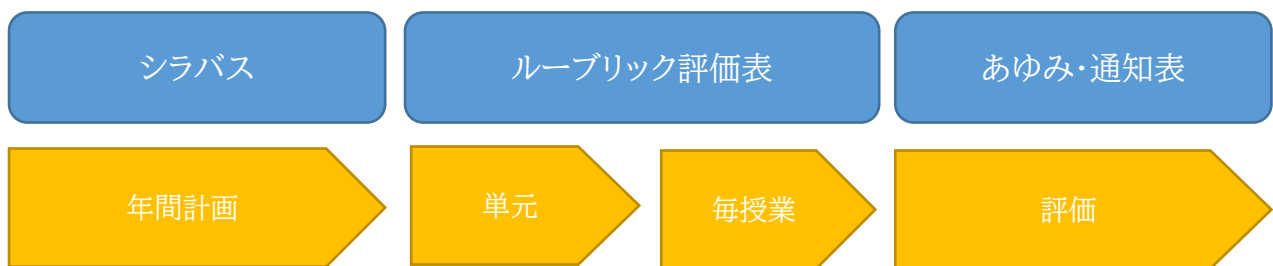
シラバスを作成しているので、  
すぐに書けるはず！改めてど  
んな目標になるのか、考えて  
みましょう！！

①具体的に対象児童を頭に思い浮かべ、②  
単元目標からそれることなく③児童生徒の何  
を評価するかを記入しましょう。具体的にな  
ればなるほど、指導はやりやすくなります。

完成したら、活用へ。活用に関しては協議会の学年ワークで行ったように、支援方法を話し合うツールとして表を使用してください。

授業前には「どの場면을重点に指導を行うのか」「そのための個々の支援をどうするか」を話し合うことができ、授業後には「(具体的に)どうだったか」ができます。

さらにその「(具体的に)どうだったか」が評価に繋がります。



来年度は個別の指導計画が3観点評価になります。ぜひ「ルーブリック表」を作成・活用してみてください。

## 令和3年度研究授業・研究協議会 まとめ

今年度研究授業では、小・中・高の研究授業者に「学習到達度チェックリスト」や「交野マトリクス」の活用、「ルーブリック評価表」の作成を依頼し、協議会では実際の活用の方法とそれに伴う支援方法や児童の様子の変化、観点別評価について動画で配信した。また、グループワークでは、実際に授業者が行った取り組みを体験し、同じ学年の教員と話しあいながら進めるようにした。

### 【今年度研究授業・研究協議会について】

	研究授業	協議会(研修)
小学部	学年:小学部4年生 教科:みる・きく・つたえる(国語・算数) 題材(単元):おてがみ～友だちに手紙を出そう～	めあて:実態把握→目標設定 内容:学習到達度チェックリストを活用し、目標や教材、手立てを考える
中学部	学年:中学部3年生 教科:美術 単元(題材):「家をつくろう」	めあて:実態把握、授業改善、課題の共有 内容:交野キャリアプランニングマトリクスを用いて生徒の実態把握、課題の共有。
高等部		めあて:観点別評価とルーブリック表を知る 内容:学習状況を書き出しルーブリック表に変換する方法の紹介。

### 【3学部協議会(研修)を終えて】

研修の中で「学習到達度チェックリスト」「交野マトリクス」「ルーブリック表」等様々なツールを用いて、ワークを行った。授業の計画、ふりかえり、評価など、それぞれの教員が課題と考える箇所で適当に活用していただきたい。今回研究部では、以下の図のように、実態把握・計画～評価・改善という流れを意識しながら、ツールを紹介しつつ、研修を行った。短い時間の中で研修を行うことで、説明が不足することがあった。

	R(実態把握)	P(計画)	D(実行)	C(評価)	A(改善)
小	学習到達度チェックリスト 「今を知り、計画する」				
中		交野マトリクス 「授業や自立活動の下敷きに！実践を、自分を振り返る」			
高			ルーブリック表 「3観点を皆で考え、一緒に進むために！」		

実態把握に困ったら  
使ってみよう！

評価に困ったら作って活  
用してみよう！

観点別学習状況を考えると

	知識・技能 (交換場面)	思考・判断・表現 (ほしいものをえらぶ)	主体的に学習に取り組む態度 (商品の内容、お店の雰囲気や呼び込みの音に興味を持っている)
生徒A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交換することを理解している。</li> <li>・お金を手渡し、商品を受け渡されるまで手を伸ばしたまま待つことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほしい商品を複数の中から見比べて選び、好きな物を「はい」「いいえ」で答えることができる</li> <li>・手に取ることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・店に入ると、おしゃべりをとめて静かになり、様子をうかがっている。店員からの言葉かけを待っている。</li> <li>・車いすですら店内に入る</li> <li>・教員の問いかけに反応し答える。</li> </ul>
生徒B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交換することへの理解は難しい。</li> <li>・肘を支えて動きを誘導することで、受け渡しの動作を行うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利き手に近い方を選ぶことが多いが、気になった方へ手を伸ばして触れて選ぶことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きれいに陳列された商品を見渡す様子がある。</li> </ul>

このように書き出した児童生徒の現在の学習状況をパズルのように下の表にあてはめていくと・・・

学年の実態にぴったりとあったルーブリック表が完成します

	3	2	1
知識・技能	お金を出した後商品を見ている	お金を出した後、商品が来ることに気づいている	教員と一緒にお金を出している
	お金を握り、賽銭箱に正しく入れている	離す・手を伸ばすなど一部の動作を自ら行うことができる	教員と一緒に腕を伸ばして、お金を渡している
思考・判断・表現	多くの商品の中から頼まれたものを店員に伝えて、正しく商品を選ぶことができる。	2つのものを見比べて、好きな方に手を伸ばすことができる。	商品の交換の様子を追視している。
主体的に学習に取り組む態度	お店に入ると、自分で商品を見つけにいこうとしている。	商品に手を伸ばそうとしたり、商品がないことを教員に伝えようとしていたりしている。	繰り返しの中で、店内の音楽や情景に慣れ、笑顔で取り組もうとしている。

このルーブリック表を使って授業を行うと、支援方法を考える際に、目標から外れることなく考えることができます。

そして・・・  
授業後にこの表を見ながら、児童生徒の学習状況を考えていくと、それをそのまま評価につなげることができます。

# 令和4年度 研究授業・協議会 まとめ

今年度から始まった新研究授業体制でわからないことも多々ある中、各グループ円滑に進めていただき、ありがとうございました。特に授業者になっていただいた先生方、お忙しい中、指導案や資料などの作成、公開授業、本当にありがとうございました。

## ☆ 本年度の研究授業・協議会

- 各グループ4~5名、計20グループの「グループ型研究授業」
- 各グループ授業者1名、その他支援者として研究授業・協議会を実施

## ☆ 目的

- 授業者:「今行っている授業」をよりよく改善する。
- 支援者:アドバイスや案を考える創造力を養い、自分事として授業見学を行う。
- 他学部への授業見学をし、授業形態や情報を共有しながら、学部間の理解を深める。
- 他学部で構成されたグループで、協力しながら、研究授業並びに協議会を進める。

## ☆ 成果

- 研究部より

- ・ 例年課題であった「見学体制」を確保することができた。他学部の授業見学をする機会が増え、お互いの授業形態・内容・大切にしていることなどの理解につながった。
- ・ 昨年度まで授業者と授業者以外の負担感に差があったが、授業者に直接意見の提案をするため、見学者がより自分事に考えることができた。授業者は意見をその場でもらうことができ、次の授業に活かしやすくなった。
- ・ いつも通りの授業を見学してもらうことで、見学者にとって意見しやすい且つ、参考にしやすくなった。

- 授業者より成果発表(2事例)

グループ(E) 授業名:うたリズム(音楽) 見学者(4)名 授業者:村上先生  
オーダー:①展開方法の良し悪し ②活動の時間配分

学年の教科担当者以外からも様々な観点で意見をもらうことができた。授業の中でわかりやすいこと、わかりにくいこと、内容をもっと肉付けした方が面白くなること、説明が必要以上に長く感じることなど授業担当者以外から客観的な意見を聞くことができた。意見を聞くことで、自分が懸念していた部分に問題があったのか、杞憂であったのかを確認でき、改善の必要性を判断する目安となった。反省会以降は改善を経て、一層自信を持って授業ができたと感じている。

また、初任者研究授業の一つ前の授業だったため、具体的な改善点をいただくことで、研究授業では課題を改善した状態で授業することができた。

グループ(H) 授業名:からだ「ラーメンをつくろう!」 見学者(4)名 授業者:橋本先生  
オーダー:各児童への支援方法について担当者を決めて見てもらった。

研究授業をするにあたって、ルーブリック表(資料)を作成した。児童の達成度はどうかという視点で見られるようになった。達成のためにどのような手立てが必要かと検討するようになった。

日頃児童と関わる中で、教員の問いかけや活動内容について、児童の実態に合っているか、より良い支援方法はないか模索していた。今回同じグループの先生方に個別にじっくり見ていただいたことで、自分が持っていない視点からのアドバイスがたくさん受けられてよかった。H グループの先生方、様々な面でご協力いただきありがとうございました!

☆ 来年度に向けて(アンケートのご意見を踏まえて)

- 今年度同様「グループ型研究授業」を実施し、グループ内の人数を6~7人に増やして行います。
- 詳しい詳細やグループは令和5年4月に全校研修にて説明します。
- 今年度同様、初任者研究授業は別途行います。今年度は、5月全校研修にて「初任者は授業者にしないというルールは設定しないが、初任者研究授業もあるため、各グループご配慮をお願いします」という説明をさせていただきました。来年度に関してもルールは設定しないため、各グループで相談の上、授業者を決定していくようお願いします。
- グループ内で授業を行える教員があまりおらず、授業者がほぼ決まってしまうという状況があったと聞いています。「授業主担を行わない教員」に関しては、年度当初に研究部で把握して同じチームにならないようにできる限り調整を行いますが、難しいこともあります。あらかじめご了承ください。
- 日程調整が難しいこともあるかとは思いますが、グループ内でお互いの学部学年縦割りグループ等の状況を判断しながら、日程変更・授業見学で抜ける際の調整を行っていただくようお願いいたします。

# 令和5年度 研究授業・協議会 まとめ

各グループ円滑に進めていただき、ありがとうございました。特に授業者になっていただいた先生方、お忙しい中、指導案や資料などの作成、公開授業、本当にありがとうございました。

## ☆ 本年度の研究授業・協議会

- 各グループ6~7名、計15グループの「グループ型研究授業」(昨年度より1グループの人数を増)
- 各グループ授業者1名、その他支援者として研究授業・協議会を実施
- 授業前会議・協議会とも研究部が司会進行を行った。
- 協議会はシックス・ハット法(良いところを引き延ばし、短所を改善する、2つの視点での話し合い)

## ☆ 目的

- 授業者:「今行っている授業」をよりよく改善する。
- 支援者:アドバイスや案を考える創造力を養い、自分事として授業見学を行う。
- 他学部への授業見学をし、授業形態や情報を共有しながら、学部間の理解を深める。
- 他学部で構成されたグループで、協力しながら、研究授業並びに協議会を進める。

## ☆ 成果

### ➤ 研究部より

- ・ アンケートでは、94%の教員が満足・おおむね満足という結果だった。
- ・ 他学部の授業見学をする機会になり、お互いの授業形態・内容・大切にしていることなどの理解につながった。
- ・ 自主的に、授業細案やルーブリック評価表を作成している教員がいた。
- ・ 新研究授業体制2年目で、各教員が積極的に授業見学や協議会のために動いたり、授業を考えたりする姿が多くみられた。

## ☆ 来年度に向けて(アンケートのご意見を踏まえて)

- 今年度同様「グループ型研究授業」を実施します。
- 詳しい詳細やグループは令和5年4月に全校研修にて説明します。
- 当日の教員の体制が厳しいことや主担授業と被り、見学ができないことがあるかと思えます。グループの顔合わせの際に、ご自身の主担の授業曜日等を共有していただき、できるだけ全員が見学できるように調整していただければと思います。どうしても参加できないこともあるかと思えますので、当日欠席の教員のためと授業の振り返りのため、来年度は授業の録画を必須とします。
- 特定の児童生徒を対象に話し合いができる協議会を目指します。当日の欠席に備えて児童・生徒2名を対象とすることとします。
- できるだけ色々な先生方に授業者になってもらえるように、今年度の授業者以外で授業者を決めるようにします。